

# 社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

## 平成 27 年 度 事 業 報 告

### はじめに

廿日市市社会福祉協議会では、廿日市市の策定する地域福祉計画と連動し、地域福祉活動計画を策定した。

様々な事業や個別ケースから見えてくる、地域の課題の解決について、重点事項を念頭に、事業を展開した。

### 重点事項

- 1 各地域（事務所）の地域福祉ニーズに応じた独自事業の展開
- 2 法人後見事業の充実
- 3 災害に備えた地域のささえあいづくりの推進
- 4 ボランティアの育成とネットワーク化
- 5 地域福祉活動計画の策定

# 第1 当事者の力を生かす取組み

同じ課題を抱えた当事者同士の各種活動への支援、当事者自身が力を発揮できる環境づくり、組織化の促進を行なうと共に課題解決を図れるように取組んだ。

## 1 福祉総合相談事業（自主・市補助 1,490千円）

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

### (1) 心配ごと相談の実施

32人の相談員を委嘱し、次のように「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00～16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (あいプラザ)	98回	55件
佐伯	毎週水曜日 (13:00～16:00)	佐伯社会福祉センター	52回	12件
吉和	原則第1・2・3水曜日 (13:00～16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	36回	15件
大野	毎週木曜日 (13:00～16:00)	大野福祉保健センター	51回	23件
宮島	原則第1・2・3月曜日 (13:00～16:00)	宮島福祉センター	30回	4件

### (2) 福祉総合相談の実施

開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日9:00～17:00。

### (3) 専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合計12回 (廿)計10回 (大)計2回	47件 (廿日市開催)
			8件 (大野開催)
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	4回	4件
	認知症の人と家族の会・大野	12回	11件

### (4) 心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性及び資質向上のための研修会を開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6月・9月・12月・3月	3月	なし	3月	3月

### (5) 全相談件数等の前年度との比較実績

項目	27年度	26年度
心配ごと相談件数	109件	137回
福祉総合相談件数	184件	182件
専門相談開設件数(司法書士・認知症)	70件	79回

## 2 福祉サービス利用援助事業（県社協委託 6,337千円）

判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に福祉サービス利用援助、日常的金銭管理、重要書類等預かりサービスを実施しつつ、制度について、医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員等への周知に努めた。

### (1) 実施状況

#### ア 契約状況

新規相談：50件（うち契約16件）

#### イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
49人	8人	1人	18人	6人	82人

#### ウ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	124件	29件	58件	21件	232件

#### エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
3,099件	1,594件	3,125件	578件	8,396件

### (2) 生活支援員の確保・研修の充実

#### ア 実施体制の充実

生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

#### イ 生活支援員人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
17人	3人	1人	9人	2人	32人

#### ウ 生活支援員の資質向上のための研修会を開催した。（年3回）

主催	開催日	内 容	参加者
市社協	第1回 4/23	本事業の事業報告 「知っておきたい心の病」 講師：友和病院 精神保健福祉士 木村 雅昭さん	10人
	第2回 2/29	「成年後見制度について」 講師： 松谷社会福祉士事務所 社会福祉士 松谷 恵子さん	14人
県社協	2/28	平成27年度権利擁護セミナー	5人

#### エ 生活支援員の養成のための講座を開催した。（全3回）

新たな生活支援員の養成のために全3回の養成講座を開催。受講者の内、5人が生活支援員に新規登録。

開催日	内 容	参加者
第1回 8/31	生活支援員に求められるコミュニケーション能力 講師：えなカウンセリングルーム 下村 恵子さん	25人
第2回 9/7	かけはし事業と生活支援員の役割 認知症の基礎知識 講師：廿日市市地域包括支援センター 山野 佳苗さん 知的障がいの基礎知識 講師：廿日市市障がい福祉相談センター 宮武 剛さん	

第3回 9/17	精神障がい基礎知識 講師：廿日市市障がい福祉相談センター 今田 聡さん かけはし生活支援員の活動について 講師：かけはし支援員 佐々木 菊江さん 中田 涼美さん 生活支援員への期待 講師：廿日市市社会福祉協議会 蛭江 紀雄	
-------------	--	--

(3) 関係機関との連携強化

- ア 自立支援ネットワーク権利擁護部会へ参加し、権利擁護についての考え方、課題整理、研修会の開催等、関係機関で協議した。
- イ 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（3月1日）  
 広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇話会、県西部厚生環境事務所、廿日市市福祉総務課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社会福祉協議会等による運営連絡会議を開催した。
- ウ ケース会議等の開催  
 多問題世帯や社会的孤立状態にある人など、対応に苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を、関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、病院、民生委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行なったことで協力関係が強化された。
- エ ケアマネージャー連絡会議、やすらぎ支援員研修等において事業説明を行なった。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

- ア 福祉サービス利用援助事業の専門員及び担当職員を複数配置し、実施体制を強化するとともに、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。
- イ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	1	ケース会議等	39
	生活支援員研修会	2	社協内担当者会議	5
	生活支援員養成研修	1		
参加	専門員実践力強化研修会Ⅱ	1	権利擁護部会研修会	1
	専門員連絡会議	2	中国ブロック専門員研修	2
	はつかいち福祉ネット権利擁護部会	1		

相談援助職としての技量の向上を目的とした専門員実践力強化研修会Ⅱ（全社協主催 2月9日～2月11日）を受講。事例検討をもとに、地域のなかでの関係機関との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を習得した。

(5) 事業周知及びニーズの掘り起こし

- ア サロンでの出前講座、パンフレット作成等を通じ事業の周知に努めた。

### 3 法人後見事業 重点2 (自主 145千円)

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人等を受任し、必要な支援、調整等の後見事務を行った。

(1) 事業の運営

- ア 法人後見事業運営委員会の開催

法人後見事業を実施するに当たり、受任の適否の判断、事業の指導を行ない、事業実施における適正さの担保のため開催した。

	開催日	主な内容	出席者
第1回	9/24	・後見支援員の設置について	委員7人、県社協1人、会長、事務局10人
第2回	3/1	・県内及び全国の同事業実施状況及び動向、廿日市市における実施状況	委員8人、福祉サービス利用援助事業運営委員5人、県社協1人、会長、事務局9人

イ 法人後見事業後見支援会議の開催

本会が成年後見人等候補者になることの適否の判断、支援方針等について協議するため、5回開催した。

ウ 職員研修等

県社協主催の研修及び成年後見制度推進会議等に出席し、動向の把握、担当職員の資質向上を図った。

エ 後見支援員の育成

後見支援員設置要綱の整理に伴い、現在受任している被後見等について、福祉サービス利用援助事業利用中から支援にあっていた生活支援員を後見支援員として委嘱した。

登録人数1人（廿日市地域）

活動状況：対象者2人に対し、延べ16回の支援にあたった。

(2) 実施状況

ア 受任件数：4件（すべて後見類型、廿日市地域）

イ 受任事案の障がい等類型

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
2件	2件	0件	4件

ウ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
106件	136件	0件	242件

エ 事業開始からの受任件数等類型

項目	件数	項目	件数
候補依頼受付	8件	候補承諾	7件
申立	5件	受任	4件
報酬付与申し立て	1件		

オ 広報

廿日市市社協だより「あいとぴあ」への掲載、廿日市手をつなぐ育成会勉強会や小規模多機能事業所等での事業説明を通して、事業実施について周知するとともに、権利擁護について意識啓発を行った。

## 4 高齢者関連事業

(1) 認知症高齢者等支援事業（市委託・自主・共募 873千円）

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次のとおり事業を展開した。

ア 認知症にやさしい地域づくりネットワークの形成

はいかいSOSネットワークを運営し、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
8件	8件	196人

(ア) はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催（9月28日）

(イ) 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動を実施した。

開催日	会場	内 容	参加者
10/6	フジグラン ナタリー	はつかいち介護の日PRイベント	
10/17	日本赤十字 看護大学	「認知症当事者の立場から、認知症の人が地 域で安心して暮らせる社会を作るために」 講師：NPO法人若年性認知症問題にとりく む会・クローバー 藤田 和子さん	400人

(ウ) 佐伯区との連携会議

広域での検索をスムーズにするため、佐伯区との連携会議を行った。イ はいかい

イ 高齢者家族支援サービスの実施

位置検索端末機の貸出実績 2台（保有台数 10台）

ウ 認知症高齢者支援会議の開催

年6回、関係者が集まり、認知症関連事業の取組みについて協議した。

エ キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

(ア) キャラバン・メイト養成研修の開催（大竹市との共催）

認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトの養成を行なった。

・3月4日開催 参加者23人

(イ) 認知症サポーター養成講座の開催（地域・職域・学校）

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、ファミサポ会員他	22回	641人
職域	望海の里	1回	42人
学校	日赤看護大、津田小、大野西小、山陽女子 短期大学、廿日市小	5回	263人
計		28回	946人

(ウ) 地域別の取組み

【市域全体】

- ・認知症サポーター養成講座の開催に当たり、各地域での活動状況の情報交換や、キャラバン・メイトのスキルアップに向けての講座等の企画を行った。（8/26・2/8）

【廿日市地域】

- ・キャラバンメイト・廿日市地域部会（7/22・8/6・12/4）
- ・小学校での講座の推進のため教育委員会へ訪問。校長会での説明。

【佐伯地域】

- ・キャラバン・メイト連絡会等の開催

日時	内 容	参加者
4/13	佐伯・吉和地域キャラバン・メイト連絡会	9人
6/16	認知症サポーターキャラバンのマスコット作り	17人
6/19	佐伯・吉和地域キャラバン・メイト連絡会	10人
8/26	キャラバン・メイト連絡協議会運営委員会	14人

10/25	「心と心のハーモニーフェスタ」にて、寸劇上演及びパンフレット配布	15人
2/8	キャラバン・メイト連絡協議会運営委員会	15人

【吉和地域】

- ・吉和地域のキャラバン・メイトと地域包括支援センター、吉和地域の医療従事者、高齢介護事業所と連携し吉和文化祭にて寸劇を行なった。これを通じて、認知症の人への対応方法や正しい知識の周知に努めた。

【大野地域】

- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会（5月14日）
- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会プロジェクト（年5回）

(2) 高齢者家事援助事業(廿日市・佐伯・吉和 市委託 0千円)

介護保険で自立と判定されたひとり暮らしの高齢者などを対象に、市からの委託により支援員の派遣を行なう。平成27年度については該当者がなかった。

( ) 内は前年度実績

利用者	0人(0人)	サービス提供件数	0件(0件)
-----	--------	----------	--------

(3) 高齢者等移送サービス事業(大野 共募 584千円)

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

【巡回車両の運行・利用実績】(毎週火曜日、第2・4木曜日 午前・午後各2便の運行)

( ) 内は前年度実績

午前1便	午前2便	午後1便	午後2便
25人(39人)	49人(54人)	25人(44人)	100人(102人)

(4) 高齢者自立支援事業(宮島 自主・共募 242千円)

概ね70歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて実施した。

ア 高齢者給食サービス事業の実施

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年6回、3つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/21・6/16・7/21 10/20・1/19・2/16	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	概ね70歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ110人

イ ひとり暮らし高齢者懇談会の開催

大野支所地域づくりグループと山口県東部ヤクルト販売の講師を招き、生活に必要な情報の提供を折りこみながら実施した

開催日	場所	内容	参加者
5/19	宮島市民センター	協力：宮島町女性会 『交通事故事例から学ぶもの』 (講師：くらし安全指導員)	15人
12/15	宮島福祉センター	協力：宮島地区民生委員児童委員協議会 『よいお通じ教室』 (講師：山口県東部ヤクルト販売(株))	21人

ウ あんしんほっとコール事業の実施

ひとり暮らしに不安を抱える3人(平成28年3月31日現在4人)の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

エ 歳末みまもり事業の実施

ひとり暮らし高齢者、母子家庭世帯などを対象とした127世帯に、年末にお赤飯などを手渡しし、声かけを行なった。

**5 車イス貸出事業** (自主・共募 43千円)

高齢者・障がい者及び緊急的に車イスが必要な人に、車イスを貸し出すことにより日常生活の利便向上に努めた。また、市内小中学校での福祉体験活動の用具として貸し出した。

【貸出し件数・台数】 ( ) 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
227 件(242 件)	122 件(127 件)	15 件(30 件)	4 件(7 件)	72 件(71 件)	14 件(7 件)
264 台(307 台)	138 台(192 台)	24 台(30 台)	4 台(7 台)	82 台(68 台)	16 台(10 台)

**6 障がい児・者関連事業**

(1) リフトカー貸出事業 (市委託・自主 1,256千円)

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に6台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸出しを実施した。通院やスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議への参加などに利用してもらうことができた。

【貸出し件数】 ( ) 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野
6 台	2 台	1 台	1 台	2 台
542 件(552 件)	356 件(331 件)	80 件(67 件)	60 件(93 件)	46 件(61 件)

(2) 障がい児・者指定居宅介護等事業 (廿日市・佐伯・吉和 自主 22,250千円)

障がい児・者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせるよう障がい児・者福祉推進に努めた。

ア 訪問介護員の派遣

在宅障がい児・者世帯に対する訪問介護員の派遣などを行なった。

(ア) サービス利用時間数 ( ) 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動(視覚)	移動(知的)	移動(全身性)
988.0 時間	228.5 時間	130.5 時間	6500.5 時間	1770.0 時間
(1564.5 時間)		(277.0 時間)	(7198.5 時間)	(1740.5 時間)

(イ) 契約者数 ( ) 内は前年度実績

区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	11 人(11 人)	87 人(83 人)	21 人(19 人)

(ウ) ヘルパー数 ( ) 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 ( 1 人)
登録ホームヘルパー	73 人 (66 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	67 人 (75 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	47 人 (47 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	85 人 (93 人)

イ 研修の実施

開催日	内 容	参加者
10/20, 11/9	廿日市市消防署による救命講習	13 人



1/15	「発達障害の心のケア」について	26人
1/31	なちゅは広島 負担のないケア技術セミナー	13人
3/26	「勉強会」 交流、事例検討など	16人

ウ 関係機関との連携

(ア) 行政や他事業所と連携を取りながら請求事務を行うほか、担当者会議に出席し相談支援業務への協力を努めた。

(イ) 利用者のニーズを把握すると共に、市社協の他活動や事業を活かした対応に努めた。

(3) 情報支援事業 (市委託 1,778千円)

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

ア 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報補償などのために、講演会、会議等へ手話奉仕員の派遣及び要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】

( ) 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	243件 (216件)	391時間 (325時間)	27人 (30人)	20人 (23人)	28人 (29人)
団体派遣	21件 (22件)	41時間 (50時間)	—	40人 (54人)	—

【要約筆記派遣実績】

( ) 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	49件 (47件)	101時間 (111時間)	4人 (3人)	9人 (6人)	14人 (17人)
団体派遣	13件 (11件)	25時間 (25時間)	—	52人 (44人)	—

イ 奉仕員の養成

活動中の手話奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、手話奉仕員ステップアップ講座を開催した。

講座回数 全1回 2時間

開催日	内 容	参加者
2/22	実際の活動における事例検討会	14人

活動中の音訳奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、音訳奉仕員勉強会を開催した。

講座回数 全1回 3時間

開催日	内 容	参加者
3/7	各広報誌の読み方	16人

ウ 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」(毎月1日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月1日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則10日発行)、「あいとぴあ」(偶数月1日発行)、点訳本として「広報はつかいち」(毎月1日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月1日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2月の原則10日発行)「あいとぴあ」(偶数月1日発行)などを提供した。

(4) 視覚障がい者生活訓練事業 (市委託 182千円)

中途失明の視覚障がい者が日常生活で介助者を頼ることなく外出ができ、社会活動ができるようになるため、歩行訓練(愛命園)を行なった。

訓練人数1人 訓練回数 7回16時間

(5) 知的障がい者生活訓練教室開催事業 (吉和 市委託 283千円)

ア 日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがい作りを行なった。

開催日	内 容	場 所	参加者
4/4	社会参加 ・ボランティア吉和とアルミ缶の整理及びレクリエーション	吉和福祉センター	20人
4/28	社会参加 ・食事作り、レクリエーション(食推共催)	石原集会所	10人
6/30	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和保健センター	14人
7/7	社会参加 ・食事作り、レクリエーション(食推共催)	鍛冶屋川集会所	10人
8/22	交流 ・ボランティア吉和交流会に参加	吉和福祉センター	28人
9/6	社会参加 ・障がい者スポーツ大会に参加	廿日市市スポーツセンター	22人
9/29	社会参加 ・食事作り、レクリエーション(食推共催)	駄荷集会所	10人
10/20	社会参加・交流 ・吉和寿司作り、吉和学園との交流	吉和福祉センター	14人
11/5	準備 ・すこやかまつり準備	吉和福祉センター	1人
11/7	外出訓練、社会参加 ・すこやかプラザまつりでのコーナー出店	吉和福祉センター	10人
11/24	生活訓練・体験 ・そば打ち体験、レクリエーション	吉和福祉センター	10人
12/1	社会参加 ・食事作り、レクリエーション(食推共催)	中津谷集会所	7人
12/21	準備 ・クリスマス会準備	吉和福祉センター	1人
12/22	創作活動 ・作品づくり(クリスマスツリーの飾り付け)	吉和福祉センター	9人
1/12	生活訓練 ・交流、レクリエーションほか	吉和福祉センター	9人
2/23	生活訓練 ・交流、レクリエーションほか(食推共催)	吉和保健センター	8人
3/1	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション(食推共催)	吉和福祉センター	15人

(6) 障がい者スポーツ教室開催事業 (吉和 市委託 12千円)

スポーツに接する機会の少ない障がい者とその家族を対象に、自立と社会参加の促進を図るため、スポーツ教室を企画するが、台風のため中止となった。

(7) 遊びの教室事業 (廿日市・佐伯・吉和 自主・共募 397千円)

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場・学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに1回・夏休みに8回・冬休みに1回実施した。多くの民生委員や学生ボランティアに関わってもらった。継続して参加してくださるボランティアが学生も含めて増えてきた。

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/3	午前:お弁当を作ってお花見に行こう 午後:スポーツレクで楽しもう	あいプラザ・ 新宮中央公園	12人	20人
8/3	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	8人	15人
8/4	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	6人	16人
8/6	午前:昼食作り 午後:ゆめタウンへ買い物	あいプラザ ゆめタウン	8人	15人
8/7	佐伯の川で遊ぼう	佐伯 戸屋原	9人	12人
8/18	宮島水族館に行こう	宮島水族館	13人	20人
8/19	午前:昼食作り 午後:ゆめタウンへ買い物	あいプラザ ゆめタウン	7人	21人
8/20	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	12人	21人
8/21	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	6人	16人
12/24	午前: 昼食作り 午後:クリスマス会	あいプラザ	14人	26人

保護者アンケートからも、遊びの教室に大きな期待を持っていただいているのを感じた。また、ボランティアの感想にも続けて参加したいという意見が多くみられた。

保護者アンケートから

- ・普段、あまりやらないことを体験出来たり、行ってみたいできるので良いと思います。ボランティアの方々にも親しく接していただき助かっています。
- ・すべてのプログラムに目的があって、ただ楽しむだけではないので良いと思います。
- ・「遊びの教室」では、子どもは固まることが少なくなっているのではないかと思います。他のお子さんたちやボランティアさんたちとのふれあいを、とても楽しみにしているようです。
- ・毎回、とても楽しんで帰ってくるので申し分ないです。

ボランティア感想

- ・とても良い経験ができて良かったと思います。この経験を生かしてもっともっとこういったことに挑戦していこうと思いました。大変だったこともありましたが、様々な子どもたちと触れ合うことができて大変楽しかったです。
- ・普段することのできない経験をすることができて、とても良かった。ボランティア活動を通してこれからの生活に生かせることを、たくさん発見できたと思います。また、機会があればボランティア活動に参加したいです。

(8) 障がい児・者福祉支援 (佐伯 自主 386千円)

ア 障がい児地域支援の実施

関係機関と連携し、未就学から学童期それぞれのライフステージで障がいのある子どもたちに、どのような支援や関わりが必要なのかを協議し、当事者やその家族に対して活動支援を行なった。

イ わんぱく旅行実行委員会への協力 (佐伯 共募 682千円)

在宅障がい児を対象にした一泊旅行を家族、ボランティア、関係者と企画実施した。また、在宅障がい者を対象に日帰りバス旅行を一押し事業として企画実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
5/21	第1回実行委員会 予算・行き先等の方針決定	廿日市市社会福祉協 議会佐伯事務所	家族：7人 ボランティア：8人
8/7	事前交流会 川遊び (戸屋原集会所)	戸屋原集会所	当事者：3人 ボランティア：6人
8/9	事前交流会 ①ボランティア・参加者の顔合 わせと交流 ②元山先生(賀茂精神医療セン ター)を迎えて家族学習会	津田市民センター	当事者：7人 家族：13人 ボランティア：16人
8/22 ～ 8/23	「わんぱく旅行 (宿泊)」 出雲ゆうプラザ しまね海洋館 アクアス	島根県出雲市・浜田 市	本人：5人 家族：9人 ボランティア：13人
9/17	第2回実行委員会 日帰り旅行行き先等の方針決定	廿日市市社会福祉協 議会佐伯事務所	家族：12人 ボランティア：10人
11/21	「わんぱく旅行 (日帰り)」 平田観光農園 (リンゴ狩り)	広島県三次市	本人：8人 家族：13人 ボランティア：24人

(9) 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 136千円)

ボランティアとの交流、外出意欲の増進を図るため「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場 所	対象者・家族	ボランティア・職員
11/27	国営備北丘陵公園 (備北イルミ)	8人	7人

(10) 障がい児者地域生活支援事業 (大野 自主・共募 110千円)

ア 鍋奉行活動等の支援

当事者組織「ハーモニー」「メロディー」「ハーモニーOB」との連携を図り、本人たちが豊かに生きていける地域づくりを目指す取組みを実施した。

開催日	実施項目	内 容
5/16・7/4 9/12・11/7 1/23・3/19	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。体験者一人に一人「ジョブコーチボランティア」が付き添い、見守り及び声かけを行なった。
5/28・10/29 3/25	喫茶「ぽっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぽっぽ」で昼食を提供。
6/30・12/1 2/23	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食作りの連絡調整を行なった。

7/25	ボランティア活動	2区ふれあいサロン（さわやか会）でのカレー作り。
10/6	ボランティア活動	介護の日のPR活動にフジグランナタリーで啓発品の配布。
12/9	お化粧品教室	阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティア（ヤクルト化粧品の方と一緒に）。
1/9	接客講座	お茶の出し方など、活動にあたっての、お客様のおもてなし方法を学んだ。
5/13・7/8 9/9・11/26 2/24	おしゃべり会	障がいのある子どもを育てる家族が自由に語り合う場を提供。

イ 小さな夏まつりの実施

障がい者との交流やふれあいの場として、大野障害者団体連絡協議会、宮島工業高等学校、地元中学校等との協働により、8月11日に「小さな夏まつり」を企画・実施し、約250人（内ボランティア33人）が参加。

(11) 精神保健福祉支援事業（佐伯 共募 35千円）

ア 当事者支援の実施

精神保健福祉ボランティアグループ「そよ風」の活動支援を行なった。また、当事者家族のおしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

イ ボランティアの養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/11	テーマ：心の病気の理解と支援 （相談支援事業所の活動について） 講 師：相談支援事業所 エスペランサ 相談支援専門員・精神保健福祉士 宮地 秀樹さん	津田市民センター	14人

(12) 精神障がい者地域生活支援事業（大野 自主・共募 80千円）

こころの病気を抱えている人たちが住み慣れた大野地域で豊かに暮らしていけるように次の支援事業を行なった。

ア 本人やその家族の自主活動や自主活動グループの組織化を支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健行政と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成、発掘

精神障がい者等への理解を深めるために、市民を対象としたボランティア講座として、対人援助技術や社会資源を学ぶための講座を開催した。

回	開催日	内 容	参加者
1	11/17	安佐北区可部の就労継続支援B型事業所「ワークショップウイング」と相談支援センター「ウイング」を見学し、障がい者の就労の場と地域の関わり方について学ぶ	18人
2	3/15	テーマ：大野地域での精神保健福祉活動について 講 師：あいあい作業所 所長 武地 成章さんとメンバー	28人

## 7 不登校・ひきこもり支援事業 (廿日市 自主・共募 354千円)

不登校・ひきこもりの子どもや若者、家族が相談できる場や居場所の開催を継続して行なった。居場所は、不登校・ひきこもり支援ボランティア“かたつむり”に協力してもらった。

居場所では、ボランティアセンターから依頼の切手の整理などのボランティア活動にも取り組み始めた。

(1) 親の会の開催

10回開催 延べ参加者 40人

(2) 居場所の開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 94人 延べボランティア参加者 122人

参加者は不登校児より、ひきこもり傾向にある人のほうが多かった。

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的とした居場所では、自立への1歩として月1回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行ない、好評だった。

(3) 講演会・学習会の開催

( )内は相談会参加者

開催日	内 容	実施場所	参加者
5/24	【講演会&相談会】 「不登校・ひきこもりといま地域に求められるもの」 講師：NPO法人東京シューレ理事長 奥地 圭子さん	あいプラザ	50人 (11人)

(4) 親の会通信の発行

8回

(5) 不登校・ひきこもり相談の実施

16件

## 8 福祉コミュニティ支援事業 (宮島 自主・共募 17千円)

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業の実施

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/27	833世帯	1,666枚

(2) 葬儀用具貸出事業 (宮島 自主 5千円)

生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。

貸出件数 0件

## 9 各種貸付事業

### (1) 緊急生活安定資金貸付事業 (自主 307千円)

緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し生活費を貸し付けることにより、経済的自立及び生活の安定を目指した支援を行なった。必要に応じて市生活福祉センター、地域包括支援センター等と連携し、自立に必要な相談支援を行なった。

#### 【貸付実績】

件数	金額
4件	230,000円

### (2) 生活福祉資金貸付事業 (県社協委託 1,941千円)

低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付と民生委員による必要な援助指導を行なうことにより、生活の自立と安定、経済的自立及び生活意欲の助長、促進を支援した。

また、日常生活全般に困難を抱えた失業者等に対して、生活の立て直しのための継続的な相談支援と貸付により自立を支援した。

- ・ 償還につながるよう借受人、連帯借受人、連帯保証人、民生委員と連携し、状況の把握に努めた。
- ・ 県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なった。

申請等実績	相談件数	申請件数
生活福祉資金	98件	7件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件

## 第2 地域の力を生かす取組み

小さな地域だからできるさりげない「支え合い」を共有し広げることで、自分でもできる関わりに気づいたり、地域から孤立している状況を発見したり、判断能力が十分でないなどのために、自ら問題解決に向かうことが難しい状態にある人々を、地域で支えていく仕組みづくりに取り組んだ。

### 1 小地域ネットワーク事業 **重点1** (共募・市補助 281千円)

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取組みのバックアップをした。

- (1) 地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）に対し事務局活動費を助成し、活動の活性化を図った。
- (2) 地域福祉推進団体が実施する視察研修先との調整及び視察研修へ同行した。  
・3/1 アイラブ佐方福祉事業部 江田島市お茶の間サロン見学同行
- (3) 地域福祉推進団体の総会、勉強会などで市社協事業などの取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知の他、地域住民の福祉に関する意識向上を図った。

開催日	開催地区	開催場所	内 容	参加者
4/28	佐方地区	佐方市民センター	安心してこの地域で暮らし続けるために	40人
5/10	宮園地区	宮園市民センター		50人
5/24	四季が丘地区	四季が丘市民センター	廿日市市社協紹介 認知症サポーター講座	50人

### 2 多機能サロン実施事業 **重点1** (吉和 自主 331千円)

高齢者サロン、福祉作業所、障がい者デイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりを行なった。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
月3回 (延べ33回)	吉和福祉センター 吉和保健センター 他	ラジオ体操/折り紙/血圧測定/食事作り/草取り/パステルアート/DVD鑑賞/散歩/芋ほり/芋の袋詰め/文化祭作品見学/書き初め/スポーツ体験/雑談 他	延べ331人

### 3 地域のつどい・サロン支援事業 **重点1** (自主・共募・市補助 2,671千円)

地域の集いが地域住民の力で自主運営され、小地域の見守り強化や閉じこもり防止など地域に根づいた活動になるよう要望に応じた支援及び新たなつどい、サロンづくりの支援を行なった。

#### (1) 廿日市地域

高齢者、障がい者、子育て世代、その他の方対象のサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取組みを支援した。

ア 集い（サロン）関係者を対象とした研修会の実施



(ア) 一般・サロン関係者を対象とした支援

開催日	内 容
6/23	食中毒予防講座
2/6	A E D講習会
2/24	認知症サポーター養成講座

(イ) 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取組み	内 容
レクリエーション グッズ貸出	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施 (129 件)
各種助成金案内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が地域で安定して運営されることを目的とした「ささえあい活動助成事業」により、継続 5 サロンへ助成金を交付した。</li> <li>・他財団助成金情報を案内した。</li> </ul>
保険案内	サロン開催時におけるケガ等の補償のためのボランティア行事用保険、活動保険の案内
情報提供及び相談対応	サロン紹介、各種相談対応、等 (115 件)
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいとびあ (市社協広報紙)」記事掲載</li> <li>・民児協の定例会にてサロン世話人のためのおしゃべりサロン参加呼びかけ</li> <li>・社協ホームページ掲載</li> <li>・おしゃべりサロンNEWS 発行 (6 回)</li> </ul>
サロン訪問	6/25 四季が丘地区 サロン・ド・四季が丘 7/15 佐方地区 すいようサロン 9/8 地御前地区 シルバークラブ地御前 9/10 阿品地区 お達者サロン 9/29 地御前地区 健康づくり教室 9/29 平良地区 平良夢サロン 10/8 阿品地区 お達者サロン 10/16 阿品台地区 阿品台 2 丁目げんきサロン 10/19 阿品台地区 にこにこ会 10/22 廿日市地区 健康サロンあゆみ 11/27 阿品台地区 すみれ会 12/16 地御前地区 ミニサロン Ensemble (アンサンブル) 1/13 原地区 原ほっとサロン 1/28 平良地区 紫陽花の会 2/4 佐方地区 東谷サロン 3/23 宮園地区 ミニつどい

イ 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

(ア) サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に、サロン世話人を対象とした交流会を実施した。世話人同士の横つながりができただけでなく、新規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供をスムーズに行なうことができた。

開催日	内 容	参加者
4/30	悩みを共有し、解決に向けて考えてみよう♪	12人
6/23	高齢者にやさしい食事作りのひと工夫♪ (ファミリー・サポート・センター研修と合同開催)	20人
8/27	府中町の世話人の皆さんと交流～サロンを楽しむ秘訣☆～	9人
10/29	サロンの広報について考えてみよう！	16人
12/18	ボランティア紹介、社協事業紹介、レクリエーション紹介	29人
2/24	1年の振り返り、廿日市地域のサロン紹介、座談会など	14人

(世話人へのアンケートから)

○サロンを運営する中でうれしかったこと

- ・毎月参加者が喜んでくださること
- ・サロンが楽しい、身体に気をつけて続けてねと言われることがうれしい
- ・多くの方と関わることができた
- ・地域の人と知りあうことができた など

○サロンを運営する中で困ったこと

- ・運営について…催しものマンネリ化に対応したい
- ・参加者について…参加者が少ない、固定している
- ・世話人について…ボランティアの高齢化 など

○サロン世話人にとってサロンとはどんな場所ですか？

- ・楽しい…笑いあり、元気をもらい楽しい場所
- ・ホッとする…安らげる場所
- ・つながり…お互いに分かり合える、絆が深まる場所
- ・生きがい…ライフスタイル など

(イ) サロン世話人連絡会の開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に阿品台地区の世話人を対象とした連絡会を実施した。

開催日	内 容	参加者
2/12	情報提供、情報交換会	11人

ウ 小地域のお茶の間づくり事業の推進

(ア) 四季が丘地区 サロン・ド・四季が丘

- ・サロン運営委員会に出席
- ・一般ボランティアの受入れ調整
- ・府中市上辻地区お茶の間サロン「喫茶かみつじ」視察研修の受入れ調整
- ・広島県社協が実施する平成27年度お茶の間フォーラム出席
- ・大野事務所が実施する平成27年度あんしんサポートリーダー情報交換会出席

(2) 佐伯地域

ア レクリエーショングッズの貸出 (73件)

イ 「ひまわり日和」でのサロンの活動状況などの広報活動

ウ サロン連絡会議 (第1回) 6月18日開催 24人

サロン連絡会議 (第2回) 2月19日開催 23人

講座：ミニ講座「認知症について知ろう」

講師：さいきせせらぎ園 久貞 啓司さん

佐伯支所 保健師 脇坂 和美さん

社協 佐伯事務所 中下 浩二

参加者：26人

エ ふれあいサロン助成金交付 3か所

オ 音楽サロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月1回開催

開催日	実施回数	実施場所	参加者
毎月第1月曜日	12回	浅原市民センター（共催行事）	延べ174人
毎月第2金曜日	12回	友和市民センター（共催行事）	延べ330人
毎月第3水曜日	11回	玖島市民センター（共催行事）	延べ106人
毎月第4金曜日	12回	津田市民センター（共催行事）	延べ254人

※津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代交流。

カ 「赤ちゃんすくすく広場～0歳児の子育てサロン～」について、子育て支援ネットワークと連携を取りながら、企画・運営を支援した。

キ 小地域のお茶の間づくり事業の推進（1年目）

広島県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促し、お茶の間サロンの立ち上げ支援を行なった。

- ・お茶の間サロン「花かご」の常設化に向け、ハード面・ソフト面の整備。
- ・県社協主催の「あんしんサポートリーダー研修」へ5人のボランティアと参加。
- ・世話人会議の開催、参加。
- ・先進地訪問研修（安芸太田町：つつが縁）の調整及び随行。

### (3) 吉和地域

開催日	取組み	内 容	参加者等
通年	各種サロンの支援	カラオケサロン・囲碁の集い・よりあいサロン等各サロンへの活動支援	1回当たり 約2～10人
1月～3月 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬期の閉じこもり防止を目的にした カローリング等の実施	1回当たり 約15～20人
随時	広報活動	「すこやかプラザまつり」での活動 紹介等のパネル展示 社協だより「ぬくもり」紙上でのサ ロン参加者の募集、活動報告	「ぬくもり」 11回/年発行
随時	レクリエーション 用具貸出	各サロンへのカローリングやペタン ク、スロービー等用具の貸し出し	17件/年

### (4) 大野地域

地区福祉部会・老人クラブを主体とした高齢者サロンの推進や、当事者による「セルフヘルプ・サロン」（当事者による相互支援サークル）の取組みを支援した。

さらに広島県社協指定事業の「社協型活動総合推進事業（小地域のお茶の間づくり）」について、各区の取組みを支援した。

ア ふれあいサロン（各区）に助成金交付 11か所

イ セルフヘルプサロンへの活動支援

- ・大野ソーシャルクラブ「プラム」（精神保健福祉サロン）への協力（再掲）
- ・障がい児を育てる家族の会「おしゃべり会」を開催

ウ ふれあいサロン活動概況調査 年1回

エ 小地域のお茶の間づくり事業の推進（県社協委託事業）

広島県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促した他、各区でのお茶の間サロンの運営（助成を含む）及び立ち上げ支援を行なった。

(ア) 指定状況

- 1年目 4区・10区
- 2年目 7区・8区
- 3年目 1区・2区

(イ) あんしんサポートリーダー研修（県社協主催）

参加者 9人

(ウ) あんしんサポートリーダーフォローアップ研修（県社協主催）

参加者 2人

(エ) あんしんサポートリーダー情報交換会

参加者 18人

オ レクリエーション用具の貸出 36件

(5) 宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月2回 第1・3水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月11・25日	杉之浦市民センター

(6) 全域

開催日	取り組み	会場	内 容	参加者
2/26	ワイワイ交流会	大野福祉保健センター	サロンで役立つレクリエーション	34人

#### 4 ファミリー・サポート・センター事業（市委託・自主 4,508千円）

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”なつながりや気軽に“SOS”が出せる関係作りができることを目指した。活動が終了しても「お互いが気にかかけあう付き合いができて」「スーパーでばったり会って、声をかけられてうれしかった」といううれしい報告を、会員からいただいている。“ほっと”なエピソードはファミサポだよりに掲載し、ファミサポだよりをみて新規の提供会員の登録があったり、依頼会員から問い合わせがあったりするなど市民に事業のPRをすることができた。

また、育児の活動依頼が前年度に比べ2倍以上になった。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,118人【依頼会員677人、提供会員388人、両方会員53人】 (1,007人【依頼会員607人、提供会員356人、両方会員44人】)
利用（活動）実績	2,793件【育児741件、介護1,949件】 (2,448件【育児378件、介護2,070件】)
広報活動	「あいとびあ（市社協広報紙）」記事掲載（3回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 民児協の定例会・社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会の開催	研修交流会開催（7回・参加者243人） 研修会内容 6/18 子育てサポーター養成講座 6/23 研修交流会 高齢者高齢者にやさしい食事作り・食中毒予防講座

	9/ 3 幼児安全法・からだにやさしいおやつのお食べ方 11/19 子育てサポーター養成講座 12/11 研修交流会 目からうろこの非常食体験・災害時高齢者支援講習 1/15 発達障害の心のケア 3/16 研修交流会 高齢者にやさしい食事作りの工夫・包丁とぎ講座 やさしいヨガ体験
--	---

## 5 地域福祉活動事業 **重点1** (佐伯 自主 221千円)

### (1) 福祉委員活動推進事業の実施

地域住民と協力して福祉活動を実践し、助け合いのネットワークを進めるため、福祉委員活動を推進した。

福祉委員	110人
福祉委員会議	地域の現状や福祉課題を把握するため開催
内 容	4/21 玖島地区・友和地区・全地区合同 4/22 浅原地区・津田四和地区 議題：市社協事業計画、福祉委員活動、日赤事業及び社資募集、社協会費募集について（参加者延べ47人）
	9/24 玖島地区・友和地区 9/25 浅原地区・津田四和地区・全地区合同 議題：市社協事業報告、日赤社資・社協会費募集状況、共同募金・歳末たすけあい募金について（参加者延べ42人）
その他の活動	地域のサロン、敬老会などの取り組みや「わんぱく旅行（宿泊・日帰り）」「心と心のハーモニーフェスタ」への協力と参加、民生委員と連携したニーズ把握

### (2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携を図った。

開催日	内 容	参加団体数
6/5	平成27年度の取り組み、ヤングボランティア、施設の現況報告等について協議 親睦会を兼ねて、「心と心のハーモニーフェスタ」、施設のまつり等について協議	7
10/1	福祉施設長連絡会 佐伯高校存続等について協議	6
12/4	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	7

※佐伯地域ケア会議（毎月第4水曜日）参加

(3) 福祉施設職員相互研修の開催

市内の福祉施設に勤務する職員延べ21人が、他施設で1日～2日間を過ごし、情報交換や交流ならびに研鑽を深めた。(延べ参加日数 18日)

期間	参加施設
7/17～ 10/16	(廿日市地域) くさのみ作業所、ピクトハウス、さくら作業所、コーヒーショップあんず、デイサービスセンター清鈴園 (佐伯地域) さいきせせらぎ園、ゆうわせせらぎ園、広島ひかり園、友和の里、夢工房、にじのえき、津田子供の家 (大野地域) 望海の里、べにまんさくの里、洗心園、ラ・メール大野 (宮島地域) みやしろ

(4) 広報啓発活動の実施

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

**6 ふれあいのまちづくり推進事業** **重点1** (大野 自主・共募5,376千円)

お互いが「気かけあえる」「支えあえる」地域作りのための推進母体となる地区の福祉部会、関係団体が同じテーブルで福祉を推進していくための協議や情報交換を行う場である大野地域福祉推進委員会の運営等を行なった。

大野地域で行われている地域福祉活動を広報するための広報紙(ふれまちだより)の発行、イベント(おおの健康福祉フェスタ)の企画

地域の中で、生活課題を抱えている人たちに対して、関係機関との連携の中で、個別課題解決に向けての協議の場を設ける。

また、地域での助け合い活動の核となる、小地域ネットワークづくりを行った。

(1) 大野地域福祉推進委員会の運営

ア 地域福祉推進委員会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
7/14	大野福祉 保健センター	1 大野地域福祉推進委員会会長の選任について 2 平成26年度地域福祉推進事業報告 3 平成27年度地域福祉推進事業計画 4 廿日市市被災者生活サポートボラネットについて 5 各地区活動の情報交換	22人
1/21	大野福祉 保健センター	1 小地域のお茶の間づくりの経過について 2 グループワーク 「地域の福祉活動の担い手について考える」 3 第35回地域福祉推進研究協議会について	17人

イ 地域福祉推進研究協議会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
3/5	大野福祉 保健センター	テーマ：介護保険法改正及び地域包括ケア推進にあたり地域で考えておきたいこと 講 師：広島県社会福祉協議会 地域福祉課長補佐 河内 広行さん	148人

(2) 個別課題解決に向けた取組み

ア 関係機関との情報共有

地区民児協定例会や地域ケア会議などの各種会議への参加を通じ、関係機関との情報共有に努めた。

イ 地区担当者が、それぞれの地区と連携し、小地域での課題把握に努めた。

(3) 小地域ネットワークづくり

ア 各地区との連携

地域福祉活動推進事業助成金や各地区福祉活動事業費（一般会費総額の70%）を助成した。また、各地区及び地区民生委員児童委員協議会が行う訪問視察研修などの調整・同行などを通じて、各地区と連携をに努めた。

イ お互いが気にかかけあえるための仕組みづくり

(ア) 環境美化活動（花いっぱい事業）

市民の交流と生きがいを目的に、市内の障がい者福祉施設で育てた花の苗を地区環境美化推進のために栽培・管理しながら福祉コミュニティの形成をめざした。

花苗配布日	品種	数量
5/28	サルビア、マリーゴールド、日々草、ベゴニア	2,550 個
10/29	パンジー、葉牡丹、ノースポール	2,550 個

(イ) 地区給食サービスへの助成

地区福祉部会を主体とした互助の取組みとして、ひとり暮らし高齢者や障がい者世帯へ安否確認も兼ねて給食弁当を宅配する活動に対して、その経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
2区	10回	285人
5区	8回	157人

ウ 福祉部会への支援

地域で行われている「ふれあいいきいきサロン」「見守り活動」の実施主体となる福祉部会に対し助成を行なった。

(4) 広報・イベント等の実施

ア 広報啓発活動の実施

地域の福祉活動を広く広報する「ふれまちだより」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

イ おおの健康福祉フェスタの企画・実施

大野地域での健康と福祉に関する集いとして、おおの健康福祉フェスタを企画・実施した。

7 いきいき活動推進事業 **重点1** (吉和 自主・共募 432千円)

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取組みへと発展させるために市と連携を図りながら様々な事業を展開した。

(1) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員・ヘルスメイトグループ・コミュニティよしわ・ボランティア吉和・女性会と協働し実施を支援した。

開催日	場所	内容	参加者
6/29	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成27年度の活動計画 ・平成26年度の事業報告・反省事項ほか	5人

8/28	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市市警察署山田巡查部長・龍野 伸子さんによる「実際にあった詐欺について」のお話 ・妹尾ご夫妻・小中学生によるミニコンサート ・食事：古代米・チキン南蛮・キュウリと干し大根のサラダ・中華スープ (ボランティア吉和、女性会、ヘルスメイト・民生委員ほか)	54人 (対象者30人、協力者24人)
12/17	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	6人
3/17	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・益本 住夫さんから「生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会」の報告 ・廿日市市警察署吉和駐在所署員から「悪徳商法」等に関するお話 ・吉和郵便局齋藤局長から「実際にあった振り込め詐欺」について ・廿日市市役所吉和支所 安藤 潔さんから「マイナンバー制度」について ・ミニコンサート(廿日市市文化スポーツ振興事業団) ・食事：ぼたもち・魚のごまフライ・呉汁・切干大根の和え物・梅干しかん (ボランティア吉和、女性会、ヘルスメイト 民生委員ほか)	74人 (対象者45人、協力者29人)

(2) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記のとおり会議等を行なった。

	実施日	場所・内容	参加者
つくる会	6/15	吉和福祉センター ・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会の構成員の推薦 ・泊りのできる施設の概要 ・今後の施設運営に必要なこと	24人
考える会	6/26	吉和保健センター ・泊りのできる施設の概要について ・今後の施設運営を含めた基本スケジュール	7人
施設部会	10/30	吉和福祉センター ・泊りのできる施設概要(報告) ・用地取得 ・実施計画に係る配置計画案	20人



つくる会	11/19	吉和福祉センター ・泊りのできる施設の経過報告 ・今後の施設運営に必要なこと	18人
座談会	11/19	吉和福祉センター ・泊りのできる施設の経過報告 ・今後の施設運営に必要なこと	28人
運営部会	1/18	吉和福祉センター ・運営部会長の選任 ・泊りのできる施設の運営体制	24人

(3) 子育てサロンの開催

月1回、支所市民福祉グループ・市民センターと共催して、すこやかサロンと同時開催した。

(4) 福祉車両の貸出し

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸出しを行なうことで、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用させていただくために適切な車両管理を行なった。貸出実績：77件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、全11号を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定及び活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出し

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具を一式貸し出すことを行なった。貸出実績 11件

## 8 ボランティア関連事業 **重点4**

(1) ボランティア活動推進事業 (廿日市・吉和 自主・共募・市補助 761千円)

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう次の支援を行なった。

ア ボランティア活動推進体制の整備をした。

イ 個人ボランティアに対する積極的な情報と、活動の場の提供をした。

ボランティア情報の提供 延べ206件

ボランティア派遣件数 延べ347人

ウ 大学との応援会議の実施・連携強化・入門講座や出張講座の開催

(ア) 応援会議を開催した。

会議回数 全6回

開催日	内 容	参加者
4/8	今年度の取組みについて	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 13人
6/3	第1回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 13人
7/4	第1回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 14人

9/20	第2回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 10人
10/15	第2回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 15人
12/19	第2回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字広島看護大学・広島工業大学・協働推進課・社協 15人

(イ) 学生のためのボランティア入門講座を開催した。

講座回数 全2回

開催日	内 容	参加者
7/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア体験談を聞こう！</li> <li>・ボランティアしてみよう！</li> <li>  保育施設でボランティア！</li> <li>  高齢者施設でボランティア！</li> <li>  障がい児施設でボランティア！</li> <li>  手話でコミュニケーション！</li> <li>  見えないってどういうこと？</li> </ul>	47人
12/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアしてみよう！</li> <li>  保育施設でボランティア！</li> <li>  高齢者施設でボランティア！</li> <li>  障がい児施設でボランティア！</li> <li>  手話でコミュニケーション！</li> <li>  募金活動をしてみよう！</li> <li>・学生によるミニ健康チェック！</li> </ul>	28人

(ウ) ボランティア出張講座を開催した。

講座回数 全6回

開催日	内 容	対象者
5/28	ボランティア活動について	プラチナクラブ
6/29	ボランティア講座	日本赤十字広島看護大学
7/6	ボランティア論 目的・意義・地域	山陽女子短期大学
7/13	ボランティア論 地域	山陽女子短期大学
7/12	ボランティアの心得と責任	NPO 法人看護アカデメイヤ幸
3/5	わたしのまちのボランティア	プラチナ同窓会

エ その他の事業（遊びの教室、サロン事業）と連携したボランティア育成をした。

(ア) 遊びの教室へのボランティア派遣 23人

(イ) サロンへのボランティア派遣 41人

オ ささえ愛ネットはつかいちの協力を得て、小中学校のボランティア体験学習を実施した。

開催日	内 容	対象者
10/30	音訳体験（音訳グループつばさ・4人）	廿日市市こども相談室
11/24	点訳体験（点訳グループあい・6人）	廿日市市こども相談室
2/5	手話体験（阿品台手話サークル・4人）	原小学校

2/8	点訳体験（点訳グループあい・6人）	原小学校
2/15	アイマスク体験（椿会・2人）	原小学校
2/19	車いす体験（飛来行・8人）	原小学校

カ ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

(ア) 活動助成金の交付

ささえ愛ネットはつかいち及び各支部に助成金を交付し、活動を促進した。

(イ) ボランティア交流会（廿日市支部担当）を開催した。

5/30 参加者 86人

(ウ) AED講習会を実施した。

2/6 参加者 52人

キ ボランティア活動保険掛金の助成をした。

1,741人分 174,000円 \*廿日市事務所分

ク 各地域の福祉まつりへのボランティア参加を支援した。

ケ 国際救援衣料収集の実施

身近で取り組みやすいボランティア活動を推進することを目的に、衣料等の収集活動を通じ、ボランティア活動のきっかけとなるような取組みを実施した。

- ・地域の方から収集した衣類を海外の風水害による被災者、人種・種族間闘争等による避難民の方へ日本救援衣料センターを通じた衣類送付を行なった。
- ・廿日市市国際交流協会との共催で1回実施した。（昨年度は2回実施）
- ・金剛寺小学校生徒、廿日市西高等学校生徒、大学生、地域のボランティアグループ、個人ボランティアの協力を得ることができた。

（ ）内は前年度実績

実施日	収集件数	協力人数	送料用寄付金額
10/24	ダンボール 379箱 (372箱)	27人 (43人)	183,548円 (179,994円)

コ 使用済み切手収集の実施

海外の方の健康を守ることを目的に、使用済み切手を地域の方から収集し、切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介し、活動へとつないだ。

8月20日に公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会へ切手を送付した。

サ その他研修会等を実施した。

開催日	内容	参加者
2/6	AED講習会	52人
2/24	認知症サポーター養成講座	2人
12/11	非常食研修・災害時高齢者支援講習	8人

シ ボランティアスクール2015の開催

ボランティア活動に関心のある小・中・高・大学生などを対象に福祉施設などで体験学習を実施した。

開催期間	内容	参加者
7/23～8/22 計7日間	吉和地域内の福祉施設や高齢者のサロン（よしわせせらぎ園・吉和保育園・囲碁のつどい）と連携し、地域の高齢者、幼児との関わりをもつなど福祉教育の推進に努めた。	延べ 16人

(2) ボランティア活動推進事業 (佐伯 自主・共募 474千円)

ア ボランティア調整 (派遣) 及び活動支援

ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整 (派遣) と活動支援を行なった。

イ れすとはうす「花かご」の管理運営

世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】 ( ) 内は前年度実績

開館日数	内 容	来館者
200 日 (196 日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア活動 (おもちゃの会、手話でおしゃべり、朗読の会、あけぼの会、リフレッシュクラブ)</li> <li>・ 文化活動 (パッチワーク、牛乳パック工作、編み物楽彩クラブ、リフォーム)</li> <li>・ ふれあいサロン (たまたまぼこ、ちゅうりっぷの会、おしゃべり広場、放課後サロンぶどう)</li> <li>・ 行事 (草抜き&amp;茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等)</li> </ul>	延べ 2,562 人 (2,316 人)

ウ ボランティア連絡協議会「ひまわり会」運営連絡会の開催 年2回

エ ボランティア養成研修の実施

ボランティアやサロン世話人を対象に今後の活動の幅を広げていただくための講座を開催した。

開催日	内 容	参加者
2/17	ボランティア養成講座 「健康体操・認知症予防運動」	20 人

オ ヤングボランティアスクールの開催

年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験等を行なった。

開催日	内 容	参加者
4/3	「遊びの教室」障がい児の見守り	6 人
7/25	「水まつり」での「みかん」バザーの手伝い等	11 人
8/4	「さいきせせらぎ園夏まつり」の手伝い (1)	5 人
8/6	「さいきせせらぎ園夏まつり」の手伝い (2)	4 人
8/7	「わんぱく旅行事前交流会」障がい児・者の見守り	5 人
8/9	「わんぱく旅行事前交流会」障がい児・者の見守り	6 人
8/20	「遊びの教室」障がい児の見守り	1 人
8/22.23	「わんぱく旅行」障がい児・者の付添・見守り	4 人
10/18	「みかんデイキャンプ」障がい児の付添・見守り	10 人
10/25	「心と心のハーモニーフェスタ」スタッフとしての体験	26 人
11/21	「わんぱく旅行バスハイク」障がい児・者の付添・見守り	9 人
11/22	「みかんカレー会」障がい児見守り	6 人
12/20	「みかんクリスマス会」障がい児の見守り	10 人

カ 小学生を対象にボランティア体験学習「ふれあい探偵団」の開催

開催日	内 容	参加者
7/27	手話講座「手話サークルみなみ」 手話発表・交流「ゆうわせせらぎ園」	13 人
8/5	宿題教室「藍染め」、福祉施設との交流「広島ひかり園」 夏まつり交流「さいきせせらぎ園」	12 人

(3) ボランティアセンター活動推進事業 (大野 自主・共募 277千円)

ア ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人及びグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙の発行など条件整備を進めた他、「ボランティアニュース」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

イ ボランティア学園の開催

小学生全学年を対象として募集し、多くの人との交流・体験を通し、福祉・ボランティアに対する意識を高めた。

また、ボランティア連絡協議会や地域内の福祉施設、中学・高校生徒会の参画により、世代間を越えた交流を促した。あわせて、障がい者団体や家族会、中学生などと協働で、「小さな夏まつり」のスタッフとして活動できた。

開催日	内 容	参加者
7/29	入園式 手話体験	8 人
8/6	音訳・点訳・アイマスク体験	8 人
8/3	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	4 人
8/4	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	2 人
8/11	「小さな夏まつり」への参画	8 人

ウ 児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援

(ア) 空飛ぶ車いす活動の支援

宮島工業高等学校生徒会による、故障した車いすを修繕して開発途上国に提供するボランティア活動「空飛ぶ車いす活動」を支援した。

(イ) ビッグフィールド大野隊の活動支援

小・中・高校生で構成された市民活動団体「ビッグフィールド大野隊」の地域福祉活動を助成した。

(ウ) おおの健康福祉フェスタへの協力

- ・宮島工業高等学校インテリア科による「手作りおもちゃコーナー」
- ・宮島工業高等学校機械科による「バッテリー電車コーナー」
- ・大野東・西小学校児童と民生委員と協働で食べ物コーナーを出店

(エ) 小さな夏まつりの実施

「小さな夏まつり」を宮島工業高等学校、中学校生徒会と障がい児者団体の協働企画によりお祭りを実施した。

エ 大野ボランティア連絡協議会との協働

大野ボランティア連絡協議会と協働で開催した。

(ア) ボランティアのつどい

開催日	場所	内 容	参加者
7/14	大野福祉 保健センター	・簡単料理とDVD学習会 DVD「花ちゃんがおらんようになった」で 認知症について学ぶ	31 人
10/30	岩国市	社会見学と漬物体験	40 人

(イ) ボランティア体験学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
5/28 6/18	大野西 小学校	大野西小学校6年生(97人)のボランティア体験学習に協力 (手話・点訳・音訳・ガイドヘルプ)	延べ38人
9/28 10/15 10/21 1/12	大野東 小学校	大野東小学校3年生(128人)のボランティア体験学習に協力(手話・点訳・ガイドヘルプ)	延べ 40人

(4) 災害救援事業 **重点3** (共募・市補助 104千円)

ア 「廿日市市被災者生活サポートボラネット」推進会議の開催及び運営

開催日	内 容	参加者
4/20	今年度の取組みについて	19人

イ 講演会(研修会)を開催した。

開催日	内 容	参加者
5/31	災害時に活かす地域のつながり 講師：新木 信博さん・石田 浩巳さん	58人

ウ 廿日市市被災者生活サポートボランティアセンターの訓練を実施した。

開催日	内 容	参加者
12/13	災害ボランティアセンター設置訓練 佐方	66人

(5) ボランティアセンター運営事業(廿日市 自主・共募 137千円)

ア ボランティアセンターの運営

イ ボランティア活動の基盤整備

ウ ボランティア相談、登録、情報提供。

ボランティア相談件数 472件

ボランティア登録者数 1,363人

ボランティア団体数 64団体

エ ボランティア活動保険加入事務の取扱い

(6) 生活・介護支援サポーター養成事業(市委託 285千円 新規)

ア 福祉、介護に関する知識や技術等について研修の開催

開催日	内 容	参加者
11/21	『地域包括ケア』～暮らしの基盤づくり～ 講師：森 マツエさん	40人
1/24	『住民主体の生活支援づくり』～吉和のとりくみ～ 講師：益本 住夫さん	41人
1/30	『住宅団地における生活支援づくり』～他地域に学ぶ～ 講師：新谷 恭規さん	45人
2/23	『視察研修』～福山御幸学区ボランティアセンターの活動、助け合い・ささえあいの仕組みについて～	18人

イ 高齢者の生活・介護支援サービスを行う担い手を養成した。

9 福祉教育推進事業 **重点4** (自主・共募・市補助 163千円)

市内の小・中学校等が取組む福祉教育活動を支援し、子どもたちが地域に目を向け、学校と地域との連携を図り、心の通うまちづくりへの推進に努めた。

- (1) 市内各学校が実施する福祉体験学習への各種支援(相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出等)をした。

開催日	内 容	対象者
10/30	音訳体験(音訳グループつばさ・4人)	こども相談室
11/24	点訳体験(点訳グループあい・6人)	こども相談室
2/5	手話体験(阿品台手話サークル・4人)	原小学校
2/8	点訳体験(点訳グループあい・6人)	原小学校
2/15	アイマスク体験(椿会・2人)	原小学校
2/19	車いす体験(飛来行・8人)	原小学校

- (2) 「福祉プロジェクト」実施への協力と地域活動実践への支援を行った。  
 (3) 実習生に対する実習計画の立案をした。  
 (4) 小中高校・特別支援学校の体験学習(施設見学の際のボランティア説明)受入れをした。

開催日	対 象 者	人 数
4/28	平良小学校 4年生	114人
6/30	廿日市小学校 4年生	120人
10/2	金剛寺小学校 6年生	21人
11/11	地御前小学校 4年生	70人
11/25	原小学校 3, 4年生	15人
2/10	宮園小学校 3年生	23人

- (3) 地域まるごと福祉教育連絡会議の開催  
 県社協が実施した地域まるごと福祉教育推進事業(3年指定事業)の指定地域に対し、連絡会議を実施し、学校・地域と協働して事業を行なった。

指定地域	実施回数	実施場所	構成員
津田小学校区	1回	佐伯社会福祉センター	14人

※友和小学校区では、学校支援本部のコーディネーター会議(月1回)に参画した。

- (4) 総合的な学習への支援(吉和地域)  
 まなびの森 吉和学園(吉和小・中学校)が総合的な学習で取り組んでいる「福祉プロジェクト」について、児童及び生徒が地域の福祉課題等を学び、自主的な活動を考えられるよう吉和地域の福祉団体等と協働し、支援を行った。

内 容	協働団体
知っておきたい安心安全なまちづくり ～障がい者の笑顔を守る～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よしわせせらぎ園</li> <li>・吉和支所</li> <li>・地域住民</li> <li>・ボランティア吉和</li> <li>・吉和保育園</li> </ul>
知って 考え 動く 障がい者福祉	
～子どもと親が 住みやすい地域を目指して～	
みんな大切 命は一つ ～子どもの笑顔を守っていくために～	

(5) 社会福祉実習生の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受入れを行なった。

機関等	時間	人数
広島文教女子大学	180	2人
星槎大学	180	1人

(6) 地域巡回型福祉・介護職場の就職面談会の開催

県内における福祉・介護人材確保並びに市町域での人材確保の基盤づくりのため、地域巡回型による福祉・介護職場の就職面談会を実施した。

12月5日 参加者約60人

## 10 生活支援サービス体制整備事業 (市委託 8,671千円)

高齢者の日常生活を支えていく生活支援サービスの充実及び高齢者の社会参加促進に向けて、地域の多様な担い手による受け皿確保のための基盤整備を推進し、多様な主体の連携体制の構築及び多様な生活支援サービスを創出することを目的として、事業を行なった。平成27年度は、廿日市地区をモデルとして体制整備を行なった。

(1) 生活支援コーディネーターの配置

廿日市地区まちづくり協議会にコーディネーターを配置し、認識を共有しながら、協議体設置、介護予防サロンの立ち上げ等主体となって活動していた。

連携会議は年間を通して30回以上開催した。

(2) 担い手の養成及び担い手と活動の場のマッチング

従来のサロンの日数を増やすための仕組みづくりや、支え合いの組織づくりのため、先進地の取組みの実際を聞き、担い手として必要な資質について学ぶ機会を企画した。

(3) 協議体の設置・運営

平成28年3月末までに福祉の会(協議体)を8回実施、延べ343人の参加があった。廿日市地域の住民による福祉のまちづくりや、助け合いの具体的な取組みについてグループワーク等を実施した。

(4) 地域に不足するサービスの立ち上げを行う団体への助成

認知症・介護予防サロンとして「健康サロンあゆみ」の立ち上げを支援し、10月以降は月1回、計6回のサロンを実施し、延べ183人の参加があった。



### 第3 関係諸機関を繋げる取組み

制度の供給側と当事者、そして社会資源を繋げながら、それぞれの立場で役割を担い、要援護者への支援に関わっていくための取組みを進めた。また、関係諸機関との繋がりを広げるため、市社協の取組みをさまざまな形で周知した。

#### 1 福祉団体支援事業 (自主・共募3,048千円)

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行なうことにより住民福祉活動及び自主運営を促進した。

##### (1) 福祉団体へ助成金の交付

【全域】 (単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	ささえ愛ネットはつかいち	200,000
福祉教育活動費助成 (市内の各小・中学校対象)			580,000

【廿日市地域】 (単位：円)

社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	150,000
虹の会	10,000		

【佐伯地域】 (単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ「ひまわり会」	50,000	在宅障害児音楽療育「パレット」	20,000
在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	682,000	心と心のハーモニーフェスタ実行委員会	675,000
精神障害者サロン「ちゅうりっぷの会」	20,000	コミュニティ活動支援(玖島・友和・津田四和・浅原)	40,000

【大野地域】 (単位：円)

大野ボランティア連絡協議会 (ささえ愛ネットはつかいち大野支部)	154,000		
----------------------------------	---------	--	--

【宮島地域】

宮島町食生活改善推進協議会	30,000	地域ふれあいフェスタ実行委員会	95,356
---------------	--------	-----------------	--------

##### (2) 各団体との協働事業

開催日	場所	内 容	参加者
4/13	栗栖集会所	はいかいSOSネットワーク (社協職員による説明) (栗栖地区 老人クラブ)	19人
7/7	ゆうわ せせらぎ園	福祉サービス利用援助事業「かけはし」・はいかいSOSネットワーク (社協職員による説明) (地域作品展&介護相談会)	20人
9/12	友和病院	福祉サービス利用援助事業「かけはし」・成年後見制度 (社協職員による説明) (友和病院家族会「たんぽぽ」)	30人

3/24	ゆうわ せせらぎ園	ファミリー・サポート・センター事業 (社協職員による説明) (認知症高齢者やすらぎ支援員継続研修)	24人
------	--------------	---	-----

(3) 福祉関係団体事務支援事業

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

- ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会
- イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

## 2 広報啓発事業 (自主・共募3,039千円)

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取組みや市内の福祉活動の動向をお知らせし、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民にお知らせした。

(2) 市社協だより「あいとぴあ」の発行

偶数月の1日に市社協だより「あいとぴあ」を新聞折込みなどで各戸に配布し、市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民にお知らせした。

(3) ホームページの運営

市社協の取組みや行事案内、ボランティアの募集など地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民にお知らせした。

(4) 各事務所独自の広報紙の発行 (各事務所)

## 3 福祉まつり事業

高齢者、障がい児者、福祉施設職員、子ども、ボランティア等、多くの市民が参加し、ふれあいつながりあい、誰もが住みよい地域づくりの場として次のとおり開催した。

(1) あいプラザまつり (廿日市 自主・共募・市補助 491千円)

「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/8	あいプラザ及び新宮中央公園	約4,100人	358人

- ・ ボランティア体験や作業所体験、また、健康推進課による健康診断、五師士会による企画コーナーなどを回る「地域包括ケアシステムの周知」を意識したスタンプラリーを実施した。これにより多くの参加者に対して意識啓発を行うことができた。
- ・ 多目的ホールでサロン活動紹介の展示、小物作り体験と平良小学校のお茶接待を開催したことで、例年以上に体験する人が多かった。
- ・ 廿日市小学校の児童及びくさのみ作業所の利用者等の協力を得て、該当募金活動を行なった。

(2) 心と心のハーモニーフェスタ (福祉団体支援事業) (佐伯 共募492千円)

実行委員会形式で実施し、54団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/25	さいき文化センター	約2,000人	200人

- ・ ささえ愛ネットはつかいち佐伯・廿日市両支部の協力により、手話・点訳・点字の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動及びサロン活動を紹介した。

- ・佐伯地域の全社会福祉施設が参加し、市民と交流ができた。
- ・佐伯中学校吹奏楽部やソーラン部、特別支援学級による協力を得て、ステージ発表を行った。
- ・佐伯高校生徒会による総合司会で、ステージ発表や参加団体のインタビューなどを行い、会場全体を盛り上げることができた。

(3) すこやかプラザまつり (吉和 自主・共募 30千円)

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/7	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約 200 人	4 人

- ・支所、包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員及びボランティアよしわと協力してスタンプラリーを実施した。

(4) おおの健康福祉フェスタ

「福祉ふれあいまつり」と「健康を守る集い」とを同日開催し、参加者全員が楽しみながら、福祉に関する正しい理解と認識を深め、自分の健康を増進する力を高めることを目的としたイベントを実施した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/4	大野体育館及び 大野市民センター周辺	約 1,500 人	200 人 ※前後の準備・撤収ボランティアを含む

(5) 地域ふれあいフェスタ(宮島 自主・共募)

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/7	宮島福祉センター	約 200 人	110 人

#### 4 共同募金運動協力事業 (自主)

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動を展開し、目標額 13,528,000 円の達成に努め、達成率は 99.5% (前年度: 99.7%) だった。

(単位: 円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	4,144,872	1,082,650	216,664	2,535,900	214,676
街頭募金	11,937	0	0	0	19,935
法人募金	218,000	116,000	116,000	178,000	13,616
学校募金	69,854	24,330	2,640	0	0
職域募金	121,562	6,633	27,700	68,700	23,332
イベント募金	38,017	17,679	0	1,042	0
その他募金	238,181	44,800	27,582	0	50,000
歳末募金	0	1,089,750	0	2,534,000	205,400
合計	4,842,423	2,381,842	390,586	5,317,642	526,959

総計 13,459,452 円 (前年度 13,509,277 円)

## 5 日本赤十字社社資募集協力事業 (日赤 1,469 千円)

赤十字事業の趣旨及び必要性の周知を行い、社資（社費・寄付金）を募集した。5月を社資募集運動月間として、目標額13,926,000円の達成に努め、達成率は77.6%（前年度：76.6%）であった。

また、火災などの災害に対し救援物資を送付するとともに、国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集及び周知を図った。

・日赤社資募集実績 ( )内は前年度実績

一 般 社 資
10,813,138 円 (10,673,799 円)

## 6 地域福祉活動計画策定事業 (自主 1,677 千円)

平成28年度から平成32年の5か年とする地域福祉活動計画を策定した。策定にあたっては、廿日市市の策定する地域福祉計画と整合を保ちながら、地域ごとにそれぞれの生活課題をだし、課題解決にあたって事務所の単位ですべての職員が協議を行い、平成28年度から展開していく取組みについて明確化した。

## ～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図り、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

### 1 職員人材育成事業

人材育成として、これからの市社協の方向性を共有するため、「職員全体研修会」を5回を開催した。併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修に積極的に参加した。

#### 職員全体研修会

開催日	テーマ・内容
6/20	1 研修会報告 2 事業の点検の進め方（事業シートの活用） 3 動向の共有化 (1) 地域福祉活動計画の進捗状況と今後のスケジュール (2) 地域包括ケア体制 (3) 法人後見事業の実施状況
9/26	「地域福祉活動計画」について (1) 概要及び策定スケジュールについて (2) 各事務所にわかれてグループ討議 (3) 発表等
11/28	1 地域福祉活動計画の経過について 2 地域包括ケアについて 3 地域包括ケア事例発表 廿日市地区
1/16	1 地域福祉活動計画全体の説明について 2 各地域における地域福祉活動の展開の地域別検討について 3 質疑応答
2/20	1 地域福祉活動計画について 2 平成28年度事業について

### 2 自主財源の確保・組織のPR事業

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対する謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなどPR活動に取り組んだ。また、昨年同様、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

# 平成27年度 役員会等開催状況

## 1 理事会

	開催日	主な議題	出席状況
平成27年第2回	5/18	(1)平成26年度事業報告及び資金収支決算(案)について (2)任期満了に伴う評議員選任の同意について	16人
平成27年第3回	5/25	(1)会長・副会長の選出について (2)決裁規程の一部改正について (3)役員等報酬及び費用弁償規程の一部改正について (4)訪問介護センター運営規程の一部改正について (5)嘱託職員給与規程の一部改正について	16人
平成27年第4回	10/7	(1)平成27年度資金収支予算の補正について (2)職員就業規程の一部改正について (3)職員派遣規程の一部改正について	17人
平成28年第1回	3/17	(1)定款の変更について (2)平成28年度事業計画及び資金収支予算について (3)平成27年度資金収支予算の補正について (4)特定個人情報取扱規程の制定について (5)福祉総合相談事業運営規程の一部改正について	17人

※出席者には、監事を含む。

## 2 正副会長会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成27年第2回	6/19	(1)全国の社会福祉の動向 (2)廿日市市社会福祉協議会の現状について (3)役員等研修について	3人
平成27年第3回	9/14	(1)かけはし援助事業・法人後見事業の取組みについて (2)地域福祉活動計画取組みについて (3)共同募金について (4)地域包括ケアシステムの構築	2人

平成 28 年第 1 回	2/22	(1) 地域福祉活動計画について (2) 平成 28 年度事業計画について (3) 平成 28 年度資金収支当初予算について (4) 定款変更について	3 人
--------------	------	--	-----

### 3 専門部会

#### (1) 財務部会・事業部会合同会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年第 1 回	3/4	(1) 平成 28 年度事業計画について (2) 平成 28 年度資金収支当初予算について	7 人

#### (2) 総務部会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年第 1 回	3/3	(1) 定款変更について (2) 特定個人情報取扱規程について (3) 福祉総合相談事業運営規程について	5 人

※出席者には、監事を含む。

### 4 評議員会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 27 年第 2 回	5/21	(1) 平成 27 年度業報告及び資金収支決算について (2) 任期満了に伴う理事・監事の選任について	33 人
平成 27 年第 3 回	10/9	(1) 平成 27 年度資金収支予算の補正について	30 人
平成 28 年第 1 回	3/24	(1) 定款変更について (2) 平成 28 年度事業計画及び資金収支予算について (3) 平成 27 年度資金収支予算の補正について	32 人

※出席者には、監事を含む。

### 5 監査会

開催日	主な内容	出席状況
5/8・11・12	平成 26 年度事業報告及び資金収支決算に対する監査	3 人
11/10・11/12	平成 27 年度上半期の事業に対する中間監査	1 人
11/17	平成 27 年度上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2 人

### 6 役員等研修会

開催日	主な内容	出席状況
10/7	福祉制度の動向と社協の課題 ～住民福祉活動への期待の高まりの中で 講師：日本大学文理学部教授 諏訪 徹さん	理事 12 名 監事 2 名 評議員 13 名 職員 13 名

